

令和元年度意見交換会の報告

PC建協では7月から10月にかけて各地方整備局、北海道開発局、沖縄総合事務局との意見交換会を行いました。

本年度は6月に改正品確法が成立し、建設業者が拠点となる地域で活動を継続することのできる環境整備が必要との見解が示されました。これを受け、PC建協では「年度工事量の安定的確保」を最重要課題とし、さらに「働き方改革の推進」「生産性向上の推進」「インフラ長寿命化への対応」を加えた4つのテーマについて意見交換を行いましたので報告します。

1. 年度工事量の安定的確保

「予算確保や事業の進捗状況により簡単ではない」との回答が多かった。ただし、地域拠点の確保と若手技術者の地元志向に配慮するためには、年度工事量の安定的確保が重要であるという点についてはご理解をいただいた。

2. 働き方改革の推進(週休2日)

モデル工事の検証と課題

(1) 適切な工期設定の運用と
概略工程の開示

適切な工期設定の運用については、「工期設定支援システムに準拠して設定している」との回答が多かった。公告時の概略工程の開示については、未実施の整備局等から「今後検討する」との回答を得た。

(2) 週休2日実施工事のさらなる
経費補正

実態調査から現状の補正係数ではいまだ経費が不足することを報告した。それに対し「労務費は段階的に引き上げている」、「工事費の見直しは労務費等の調査結果に基づくため、調査では正確な記入をお願いする」との回答が多かった。

3. 生産性向上の推進

(1) プレキャスト化の推進

Uコンボ橋の採用については、適材適所で使用するという回答が多かった。

た。構造形式選定時の2次選定でのプレキャスト構造の追加に関する提案

については、「現状では適切に評価することが難しく、今後の課題とする」との回答が多かった。運搬に使用する特殊車両の更新手続きの簡素化については、担当する運輸局に伝えるとの回答がほとんどであった。地域で独自に設定している運搬時間の見直しについては、「関係機関との協議により設定しており理解・協力をお願いする」との回答が多かった。

(2) ICT活用の推進

新技術導入促進(Ⅱ)型工事の発注継続に関する要望については、概ね理解を得て「対応可能なものは順次発注する」との回答があった。

4. インフラ長寿命化への対応

(1) 設計者と施工者が連携した
PC橋保全補修工事の試行

R-1、R-2(一般的なECI)方式での試行工事の発注提案は概ね理解されたが、PC橋への適用に関する具体的な意見交換には至らなかった。

(2) 地方自治体支援に向けた
工事発注形態の検討

地方自治体が管理する橋梁に対す

る直轄代行の更なる推進については、「道路メンテナンス会議等の協議会で意見交換している。また、要望があれば代行を検討する」との回答が多

かった。中規模橋梁の一括発注については、「管轄が異なり課題が多い」との回答が多かった。また、PC建協保有の「橋梁データベース」の活用については、好意的な意見が多かった。

高速道路株式会社との
意見交換会

高速道路株式会社3社との意見交換会を開催し、次の3テーマで意見交換を行いました。

- ① 年度工事量の安定的確保
- ② 働き方改革の推進
- ③ 生産性向上の推進



▲ 地方整備局との意見交換会の様子



▲ 表彰を受けた方々を囲んで

令和元年度「優秀施工者国土交通大臣顕彰」、「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰」

令和元年10月11日、東京都港区のメルパルクホールにて、令和元年度「優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）」、「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰（建設ジュニアマスター）」の顕彰式典が開催されました。今年で28回目です。

この建設マスターは優秀な技能者を国土交通大臣が顕彰する制度で、現場経験20年以上で年齢40歳以上60歳以下などが対象となります。また平成27年からは若い技能者の育成促

進策の一環として、現場経験10年以上で年齢39歳以下を対象とした建設ジュニアマスターを設けています。式典では、優秀な技能・技術を持ち、後進の指導・育成などに多大な貢献をした建設技能者456人が建設マスターとして、また、今後さらなる活躍が期待される技能者105人が建設ジュニアマスターとして顕彰されました。

PC建協からは建設マスターを4人、建設ジュニアマスターを3人推薦し、合計7人が受賞されました。顕彰者は次のとおりです。

- | | |
|------------|--------|
| 建設マスター | 相川 貞行氏 |
| ・(株)明巧 | 上田 憲一氏 |
| ・(株)西和工務店 | 霍田 譲二氏 |
| ・(株)安東建設 | 松本 喜和氏 |
| ・(株)スガナミ | |
| 建設ジュニアマスター | |
| ・太志建設(株) | 工藤 晋哉氏 |
| ・北川工業(株) | 武田 雅人氏 |
| ・丸喜運輸機工(株) | 中井 幸子氏 |

令和元年度道路功労者表彰

道路整備事業や道路愛護・美化道路整備事業や道路愛護・美化保全などに推進・尽力した団体・個人を対象とした「令和元年度道路功労者」がこのほど発表され、PC建協が推薦した3人が表彰されました。

この表彰制度は平成26年から日本道路協会が行っています。毎年8月10日の「道路の日」に表彰状と記念品が贈呈され、今年は60人と95団体が表彰されました。

PC建協が推薦し、今回表彰された方々は次のとおりです。

- ・(株)IHIインフラ建設 高橋 政雄氏
- ・ドービー建設工業(株) 恒川 克己氏
- ・(株)日本ピーエス 河村 敏和氏



▲ 表彰を受けた方を囲んで

第28回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウムに出展

PCに関する講演会や最新のPC技術が展示される「第28回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム（主催：(公社)PC工学会、後援：PC建協）」が令和元年11月7日と8日の2日間、愛知県産業労働センター（ウイंकあいち）で開催されました。今回は(公社)PC工学会設立60周年の記念大会で、この祝賀会が初日に名古屋国際ホテルで開催されました。祝賀会では藤井敏道PC建協会長が来賓挨拶として設立60周年の祝辞を述べました。

PC建協のブースでは、Uコンボ橋の模型、中部地方のPCの主要事業のパネルの展示に加え、「PCのニューフェイスたち」のモニター上映を行いました。



▲ PC建協の出展ブース

PIARC第26回世界道路会議(アブダビ大会)に出席

令和元年10月6日～10日の5日間
にわたり、アラブ首長国連邦(UAE)の首都アブダビで世界道路協会が主催する「PIARC第26回世界道路会議(アブダビ大会)」が開催され、PC建協として日本パビリオンにブースを出展しました。

本大会には144カ国から3000人以上が出席し、日本からは菊川滋(公社) 日本道路協会副会長(PIARC副会長)をはじめ約200人が参加しました。

技術展示会には米英仏など19カ国114団体が出展しました。日本パビリオンでは国土交通省、東京都、



▲ 日本パビリオンオープニングセレモニー

NEXCO各社、建設会社、道路会社、コンサルタント、PC建協を含む3協会など国内より36団体が活動や技術を紹介しました。

PC建協は協会として取り組んでいる「i-Bridgeの推進」および「環境保全に向けた建設副産物の利用促進」についてパネル展示するとともに、日本および世界各国における会員企業の施工実績などをアピールするビデオ、パンフレットを展示しました。またブースには世界各国の政府機関や大学関係者などが立ち寄り、世界各地におけるPC技術の適用等について活発な意見交換が行われました。

今回は2023年にチェコ共和国のプラハで開催予定です。

現場見学会開催

PC建協支部が主催する現場見学会が各地で開催されました。

(関東支部)

令和元年11月15日に栃木県那須塩原市の下塩原第一橋梁の工事現場で(一社)建設コンサルタツツ協会関東支部の会員24人を対象に現場見学会を実施しました。

本橋は橋長167m、有効幅員9.5m、アーチ支間長101mの上路



▲ 下塩原第一橋梁の現場見学の様子

式コンクリートアーチ橋(補剛桁形式PC2主版桁橋。場所打ち杭基礎逆T式橋台、深礎基礎壁式橋脚および深礎基礎アーチアバット/川田建設・西松建設・松岡建設JV)です。当日は工事現場を見学後、大田原市の川田建設(株)那須工場へ移動して、プレキャスト製品の製造ラインなどを紹介しました。

その他

(東北支部)

- ・10月11日 (福島県郡山市・三森3号橋)
- 福島県職員18人

・10月30日

- (秋田県北秋田市・館野跨道橋)
- 県立秋田北鷹高校生徒36人

PC技術専門家を派遣

PC建協では学生にPC構造に興味を持ってもらうことを目的に各地区でPC技術専門家派遣事業を展開しています。

(北海道支部)

令和元年11月22日と29日に苫小牧工業高等学校創造工学科都市・環境コースの4年生44人にPCの概要と施工、北海道のコンクリート橋などについて解説しました。



▲ 苫小牧工業高等専門学校での派遣講義

(関東支部)

令和元年10月29日と30日の2日間、東京理科大学理工学部土木工学科の2年生、約170人に「コンクリート工学実験」と題して緊張実験を行い

● 8月以降に実施されたPC技術専門家の派遣講義

開催日	支部名	学校名
8月 5日・9日	関東	群馬工業高等専門学校
9月 13日	北陸	長岡工業高等専門学校
9月 21日	関東	日本大学
10月 8日	九州	鹿児島大学
10月 10日	九州	長崎大学
10月 16日・30日	北海道	北海道大学
10月 17日	北陸	富山県立大学
10月 26日	関東	東京大学
10月 29日・30日	関東	東京理科大学
11月 6日・13日	九州	熊本大学
11月 7日	関東	前橋工科大学
11月 8日・15日・22日	中国	広島工業大学
11月 12日	九州	九州大学
11月 14日	関東	早稲田大学
11月 22日・29日	北海道	苫小牧工業高等専門学校
11月 29日	中国	山口大学
11月 30日	関東	芝浦工業大学

ました。まず座学としてPCの基礎、設計、施工、維持管理について資料や模型などを使って説明しました。続いての実験では部材に緊張力が入る様子に学生たちは感心の声をもらっていました。

(中国支部)
令和元年11月29日に山口大学工学部社会建設工学科の3年生約60人にPC橋に関する講義を行いました。講義ではPC構造物の紹介や、PCの基礎、設計、施工、維持管理などを資料を使って説明しました。

各地でPC技術講習会開催

PC技術に関する講習会が各地で開催されました。

(東北支部)

令和元年11月28日に秋田県大仙市西仙北庁舎での「PC橋技術研修会(主催：(一財)秋田県建設・工業技術センター)」で、自治体職員など約50人を対象にPC橋の概要、PC橋のライフサイクルコスト、耐久性向上技術、点検要領などの講義を行いました。

(北陸支部)

令和元年11月15日に新潟県自治会館(新潟市)と22日に石川県地場産業振興センター(金沢市)で「第5回わかりやすいPC橋の施工技術研究会(主催：PC建協)」を開催し、北陸地方整備局や自治体の職員など約20人を対象にPC橋の概論、架設技術などの講義を行いました。

(九州支部)

令和元年11月8日に宮崎県宮崎市の宮崎県建設技術センターでの「橋梁維持管理研修(主催：宮崎県建設技術センター)」で自治体職員など約18人にPC橋の基本(設計・施工)の留意点などの講義を行いました。

● そのほか8月以降に実施された講習会

開催日	支部名	講習会名	主催
8月1日	中国	第11回土木技術講習会	(公財)島根県建設技術センター
8月8日	中部	公開講座「持続可能性に貢献するコンクリート技術」	名古屋工業大学
8月27日・28日	九州	橋梁初級Ⅱ研修	九州地方整備局
9月6日・12日・19日・25日	四国	3協会合同技術講習会	(一社)建設コンサルタンツ協会、(一社)日本橋梁建設協会、PC建協
9月12日・13日	関西	PC橋に関する技術講習会	(公財)兵庫県まちづくり技術センター
9月13日	北陸	第9回けんせつセミナー2019橋梁Ⅱ(上部工の設計・施工編)	(一財)新潟県建設技術センター
9月20日	北陸	インフラメンテナンス講習会	北陸地方整備局
9月25日	関西	技術管理講座(橋梁保全Ⅱ講座)	(公財)滋賀県建設技術センター
10月9日	中国	PC技術講習会	(一社)建設コンサルタンツ協会、PC建協
10月10日	九州	第21回専門技術研修会：橋梁の計画から施工まで	(公財)大分県建設技術センター
11月1日	東北	土木技術専門研修(橋梁/施工[初級])	(公財)岩手県土木技術振興協会
11月12日	東北	道路構造物管理実務者研修(橋梁初級Ⅱ)	東北地方整備局
11月12日・13日	東北	建設コンサルタント三団体技術研修会	山形県地質土壌調査業協会、(一社)山形県測量設計業協会、山形県建設コンサルタント協会
11月15日	北海道	PC橋に関する技術講習会(第2回)	(一社)建設コンサルタンツ協会北海道支部
11月27日	関東	PC橋技術講習会(松本)	(一社)建設コンサルタンツ協会関東支部

【北陸支部】 第3回北陸橋梁保全会議に 出展

令和元年10月28日と29日の2日間、新潟市中央区の新潟グランドホテルで「第3回北陸橋梁保全会議（主催：北陸橋梁保全会議実行委員会（北陸地方整備局、PC建協など）」が開かれました。

この会議は橋梁保全の技術向上と情報交換などを目的に産官学連携で3年に1度開かれています。

今回は約1100人が来場しました。PC建協はブース出展に加えて「橋梁保全のさらなる向上を目指して」と題したパネルディスカッションにパネラー参加し、さまざまな情報を紹介しました。



▲ パネルディスカッションの様子

建設技術展示会に出展

最新の土木建設技術を展示する「建設フェア」が各地で開催されました。

（中部支部）

令和元年10月16日と17日の2日間、名古屋千種区の吹上ホールで「建設技術フェア in 2019 中部（主催：中部地方整備局、名古屋国際見本市委員会、後援：PC建協など）」が開かれました。

PC建協ブースに「びよんびよん板（PC板）」を置き、来訪した学生や教職員などに乗ってもらいプレストレストによる復元力を体感してもらいました。

（関西支部）

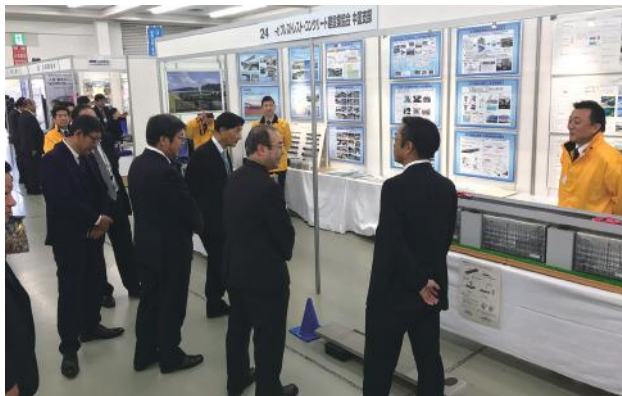
令和元年10月23日と24日に大阪府中央区のマイドームおおさかで「建設技術展2019 近畿（主催：㈱日刊建設工業新聞社、（二社）近畿建設協会、共催：PC建協など）」が開かれました。関西支部もブース出展し、橋梁模型の展示やモニターでPC構造物や工法の紹介動画の放映を行いました。今回も、2日間とも盛況で、発注者をはじめ多くの関係者に来訪いただきました。

（中国支部）

令和元年11月26日と27日の2日間、広島市南区の広島産業会館東館で「建設技術フォーラム2019 in 広島（主催：建設技術フォーラム実行委員会、協賛：PC建協など）」が開かれました。

テーマは「安全・安心で豊かな地域づくりを支える建設技術×防災・減災対策、老朽化対策の取り組み、ICTを活用した新技術」でした。

PC建協ブースではPC橋の組立模型なども展示し、来展者にPCの特徴をわかりやすく説明しました。



▲ PC建協ブースの様子

PC建築フォーラム in 名古屋2019に参加

若い建築家や学生にPC建築の美しさや魅力を紹介する「PC建築フォーラム in 名古屋」が令和元年11月9日と10日の2日間、愛知県春日井市の中部大学春日井キャンパスで開催されました。主催は（NPO）PC建築技術支援センターと関西PC研究会、後援は（公社）PC工学会とPC建協です。

初日は60人が参加しました。まず「PC構造とこれからの建築」と題した鈴木計夫関西PC研究会代表（大阪大学名誉教授）の基調講演から始まり、次に大野義照PC建築技術支援センター理事長（大阪大学名誉教授、PC建協元理事）がPC建築の事例を紹介しました。続いて、愛知総合工科高校校舎（名古屋千種区）などを題材にPC建築の事例と特徴が解説された後、「PC建築の魅力」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

2日目はPC構造物の見学会が開催されました。参加した23人は（㈱安部日鋼工業本社ビル（岐阜県岐阜市）、名古屋商科大学万博記念ゲート（愛知県日進市）などを丸1日かけて巡りました。

全国から開通情報

(関東支部)

中部横断自動車道(富沢IC～南部IC)、開通

令和元年11月17日に中部横断自動車道の富沢IC～南部IC間(延長約6・7km)が暫定2車線で開通し、新東名～中央道間(総延長約74km)の8割が完成しました。

富沢IC付近での開通セレモニーには地方自治体関係者などが出席し、テープカットとくす玉割りの後、通り初めが行われました。



▲ 中部横断自動車道 田中川橋

(中部支部)

三遠南信自動車道飯橋道路(天龍峡IC～龍江IC)、開通

令和元年11月17日に三遠南信自動車道飯橋道路の天龍峡IC～龍江IC間(延長約4km)が開通しました。龍江ICから中央自動車道への所要時間は約10分となり、現況より6分短縮されました。

天龍峡IC駐車場で催された開通セレモニーには自治体関係者など約230人が出席し、テープカットとくす玉割りの後、通り初めが行われました。



▲ 天龍峡IC駐車場で開通セレモニー

(九州支部)

小石原川ダム付替国道1号橋、渡り初め

福岡県朝倉市の小石原川ダム建設に伴う国道500号線の迂回路である付替国道1号橋(橋長333.9m)がこのほど完成し、令和元年11月4日に渡り初めセレモニーが開催されました。



▲ 国道1号橋の渡り初めセレモニー

その他

- ・東北中央自動車道相馬IC～相馬山上IC(約6・0km)
- ・東海環状自動車道大野神戸IC～大垣西IC(約7・6km)
- ・福岡県都市計画道路鯉田中線川島～幸袋(約1・1km)

編集委員会

柳橋 則夫(編集委員長)、櫻福 浄(副委員長)、高松 正伸(副委員長)、湯山 芳夫、大信田 秀治、鈴木 裕二、吉山 誠之、石井 一生、竹本 伸一、大塚 俊介、松嶋 憲昭

編集幹事会

久我 誠志(幹事長)、小谷 仁(副幹事長)、荒畑 智志(副幹事長)、渡邊 文美、小出 武、栗川 修、関口 豪賢、大谷 圭介、杉村 卓也、木下 拓三、石樽 修、岡本 修一、直井 秀市、上田 孝明、瀬戸 裕一郎、岩崎 麻美、坂田 貴俊

編集後記

今回の特集は「新幹線暮らしを支える高速鉄道ネットワーク」でした。1964年に開業した新幹線、誕生の経緯から輸送人員の増加、移動時間の短縮、海外の高速鉄道との比較、さらにPC橋梁の変遷が読み取れたと思います。開業から55年経過した新幹線に多くのPC橋やPCまくらぎ、スラブ軌道などPC技術が基盤の下支えになっておりPC建協が一翼を担ってきたことも理解できました。現在、高速ネットワークと言え今年導入予定の5Gインベーションなどの通信システムを多くの方が連想します。5Gは、我が物顔で世界的に整備が進められています。対照的に「必要？」と言われた「新幹線」でしたが、人の流れの効率化を追求した結果、日本の発展、高度経済成長、都市発展に務め、今も職務を遂行しています。近年、第4次産業革命が世界的に進み、AI、IoTなどを活用しながらインベーションを社会実装していくことが求められています。世界に先駆けて生産性の極めて高い建設産業や交通運輸産業を創造していかなければいけない、そんな時だから新幹線計画時の「インベーション魂」を忘れてはいけなくと考えます。

今回の特集をまとめるにあたり、多くの資料の提供や多大なるご協力をいただきました(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。(石樽)